

タイトル

マイクロスコープと Wave One GOLD を使用した効率的な根管治療 ～Ni-Ti file 使用前後の重要なポイント～

長崎大学大学院 医歯薬学総合研究科齶蝕学分野
辻本 真規

抄録

マイクロスコープ、Ni-Ti ファイル、CBCT のいわゆる歯内療法三種の神器に加え、超音波チップ、Mineral Trioxide Aggregate は歯内療法にパラダイムシフトを起こした。特に Ni-Ti ファイルの発展は目覚しく、現在は第六世代まで進化している。その中でも、熱処理技術の進歩により、破折抵抗の向上や、相変体温度の変更による従来の Ni-Ti ファイルよりも形状記憶特性が強い、マルテンサイト系 Ni-Ti ファイルが登場し、根管形成がより安全に行えるようになった。また、Wave One®、RECIPROC®などの single file、根管形成モーションの変更など、Ni-Ti ファイルは多岐にわたる進歩が続いている。しかし、どんな Ni-Ti ファイルを用いても、根管形成には限界があることが研究からも明らかになっている。Ni-Ti ファイルを使った根管形成では処理の難しい、「解剖学的トラップ」はマイクロスコープと超音波チップをはじめとするインスツルメントによりアプローチしなければならない。

今回は、Ni-Ti ファイルの使用に関連する、マイクロスコープと超音波チップを使った解剖学的形態を考慮した Pre-enragement、Glide path の意義、Patency file の重要性、そして Ni-Ti ファイル使用後の解剖学的トラップの処理方法などの、三次元的なアプローチについて動画を交えて解説する。

<略歴>

平成 20 年 3 月日本大学松戸歯学部卒業

平成 21 年 4 月長崎大学大学院医歯薬学総合研究科入学

平成 21 年 4 月日宇歯科・矯正歯科勤務（～平成 25 年 3 月）

平成 24 年 1 月日本顕微鏡歯科学会認定医取得

平成 25 年 3 月長崎大学大学院医歯薬学総合研究科修了、博士（歯学）

平成 25 年 4 月長崎大学大学院医歯薬学総合研究科齶蝕学分野助教

平成 27 年 2 月日本歯内療法学会関東甲信越静支部 第 9 回ウィンターセミナー鈴木賢策賞受賞

平成 27 年 4 月第 12 回日本顕微鏡歯科学会学術大会大会長賞受賞

平成 28 年～ 日本顕微鏡歯科学会評議員